

東京都立八王子桑志高等学校 令和6年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	家庭	科目：	家庭基礎	単位数：	2	指導学年：	2
使用教科書	家庭基礎 気づく力 築く未来（実教出版）		副教材				

年間指導目標：
 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を想像する資質・能力を育成することを目指す。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察してことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	評価方法					配当 時数
					a	b	c	d	e	
1 学期	中間 考査	家庭科を学ぶにあたって 第1章これからの人生について 考えてみよう 第2章自分らしい生き方と家族	(知)	自分自身や現在の社会状況を客観的に知り、将来を見通した人生設計への課題をみつけることができる。青年期の課題である自立や平等と相互の協力、生活にかかわる現在の労働環境、結婚・家族・家庭の多様化について理解できる。	○	○	○	○		12
			(思)	自分の近い将来についてのキャリアや生活についての設計を考え、ワークなどを用いてそれらを具体的に描いていくことができる。現在の家族・家庭のあり方、課題について解決に導くための考えをまとめ、討論やレポートを通して発表することができる。		○		○		
			(態)	現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて、意欲を持ってとりくもうとしている。労働の意義や役割、労働時間と生活時間とのかかわりについて関心を持ち、現在の家族が抱える課題を見いだそうとする。		○		○	○	
1 学期	期末 考査	第7章 衣生活をつくる	(知)	衣服材料の性能と特徴、衣服整理についての科学的な知識を身につけることによって、衣服を適切に選択し、管理することができる。衣類の購入から廃棄まで、計画的な衣生活を営む知識を身につけている。	○	○	○	○		12
			(思)	衣服の用途によって、適切な衣服素材を考え、判断することができる。現在の衣生活をとりまく状況について、自分の衣生活を振り返りながら、課題を導き出すことができる。		○		○		
			(態)	自分の衣生活をとりまく状況について関心を持ち、衣生活の改善・向上に積極的にとりくもうとする。基礎縫い、刺し子の実習や衣服調査などにおいて積極的に取り組もうとする。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	第3章子どもとかかわる 第4章高齢者とかかわる 第5章社会とかかわる	(知) 子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。子どもとの接し方、子どもの衣食住にかかわる物づくりなどの技術を身につけている。高齢者社会の現状や高齢期を支える社会的な制度やしきみについて理解している。	○	○	○	○		16
		(思) 子どもの心身の発達、現在の子どもの取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。高齢者の現状を知り、自立した生活とは何か、自分の考えをまとめることができる。			○		○		
		(態) 子どもとふれあう体験学習や、子どものためのおもちゃづくり、お菓子づくりなどの実践活動に、積極的に参加し、子どもの発達の様子や生活に興味・関心をもとうとしている。高齢社会の現状、心身の特徴や生活について積極的に知り、高齢者とかかわろうとしている。			○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	第6章食生活をつくる	(知) 日本の食文化や食事の意義や役割、食生活をとりまく環境などについて、現代の食生活の課題が理解できる。栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術を身につけ、それを実際の食生活を活かすことができる。	○	○	○	○		16
		(思) 自身の食生活や現在の食生活の課題を発見し、課題解決のために思考し、解決にむけての判断ができる。栄養の機能と食品のかかわり、また食品の特性と調理との関係において、科学的な思考を身につけ、食品選択、栄養計算や献立など、実際の食事作りにむけての判断ができる。			○		○		
		(態) 食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点をもって、知識を深めようとしている。自分自身の食生活に関心を持つとともに、自分や家族の食生活について意欲的に改善・向上に努めようとする。			○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	第8章住生活をつくる 第9章消費行動を考える 第10章経済的に自立する	(知) 住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係について理解している。消費行動について、さまざまな情報を収集しながら、自分の消費行動について検証することができる。また契約についての知識を身につけている。家庭経済・国民経済などのしくみについて理解でき、短期・長期的経済計画の重要性を認識できる。	○	○	○	○		22
		(思) ライフステージと住空間の設計の関係、住環境について考えを深めることができる。消費行動における意思決定の過程について、具体的な事例を通して主体的に考え、判断することができる。現在の経済社会と家計との関係を考えながら家庭の収入・支出・預金などについて適切な考えを持ち、判断ができる。			○		○		
		(態) 住まいの機能、住空間の計画や住環境について関心を持ち、快適な住まいづくり、よりよい住生活の創造にむけて意欲的にとりくもうとする。自分が一消費者であることを自覚し、物・サービスの購入のあり方や、消費行動、消費と環境とのかかわりについて積極的に理解しようとする。自分の経済的自立を考えながら、家庭経済・国民経済のしくみや特徴について積極的に理解しようとし、短期・長期的経済計画について意欲的にとりくもうとしている。			○		○	○	
合計								78	